

第4回 上郷高校跡地利活用方策検討会 会議報告書

1 日時

平成28年2月2日（火）13時30分から15時30分

2 場所

つくば市役所5階庁議室

3 出席者

（委員）大村委員，大島委員，坂本委員，光田委員，土田委員，岡崎委員，越後委員，潮田委員，浜中委員，須藤委員，星野委員，長島委員，栗原委員

（事務局）企画・国際課長，企画・国際課長補佐，企画・国際課担当者

（傍聴者）6名

4 内容

（1）開会

（2）あいさつ

（3）議事① 今後のスケジュールについて

〔事務局より，資料について説明〕

（座長）

只今，事務局から今後のスケジュールについてご説明がありました。当初は5回程度の会議を開催する予定でしたが，更に議論を深めるため予算が確定したらあと2回会議を伸ばしたい。来年度5月と7月に6回，7回の会議を開催して最終的な報告書として取りまとめて市長に提出するというスケジュールで如何かという説明でした。何か，ご質問やご意見がございましたらお受けしたいと思います。

（委員）

上郷跡地の建屋の現状を申し上げますと，だいぶ老朽化しますので出来るだけ早く取りまとめていただいて，何らかの利活用策や施設を考えていただきたいと地元としては思っているのでも宜しくをお願いします。

（座長）

委員のご意見は，早くということで必ずしもこのスケジュールがあと2回会議を延長することに対して明確に反対するということではないけどなるべく早く結論を出してほしいということによろしいですね。

（委員）

はい。

(座長)

他に何かご意見はございませんか。

(委員)

委員は、なるべく早くというご意見でしたが、委員の皆様に地元の意向を踏まえながら、市長に報告書を提案したいということですから、できるだけ早くということ念頭に置いておいて、予算の関係もありますから、この案で各委員の皆様にご協力をいただいてまとめていきいたと思います。

(座長)

他にご意見はございませんか。予算を今度の議会で承認していただくという形になると思いますが、基本的には事務局提案のスケジュールでよろしいですね。予定としては、あと2回会議を延ばすということ。しかし、結論としてはなるべく早く具体性を持ったものを最終的な報告書として取りまとめるということで進めたいと思いますので、委員の皆様のご協力をいただきたいと思います。よろしいですね。

〔全員了解〕

(座長)

では事務局案のスケジュールをご了承いただいたということで、今日の議事を進めたいと思います。

議事を進めます。(1) 第3回会議で出された意見の整理と、(2) 廃校利用事例の管理運営について、事務局から一括して説明をお願いします。

(事務局)

(1) 第3回会議で出された意見の整理

(2) 廃校利用事例の管理運営について

〔事務局より、資料について説明〕

〔以下、質疑事項のみ抜粋〕

(座長)

ありがとうございました。事務局から資料の説明がありました。これらは前回の議論を整理しまとめていただいたものと補足説明でした。利活用の管理運営ですが、民設民営となっている施設であっても、経済的に採算が合うものは難しくて何らかの公的支援が必要だったりする。ただ、公共が全てを運営するのは中々難しいということが分かる資料だと思います。今回の上郷について、他の事例がそのまま該当するかは別としても参考になると思います。ご質問やご意見がございましたらお願いします。

(委員)

資料を配ってください。〔委員の資料を配付〕

上郷高等学校跡地利活用方策検討会の地元代表者による情報交換会を1月28日の

木曜日に豊里交流センターで開催した結果の報告をします。

地元代表である光田委員，秋葉委員，土田委員，須藤委員，浜中委員，木村委員と私の7名で集まり，本日の第4回検討会開催に向けて，より一層前進するよう，きたんの無い意見情報交換を行いました。代表して私の方から，発言させていただきます。

第3回検討会までの経過確認と，検討会開催以前から豊里地区での，跡地利用に関する取り組み経過を，確認と言いますか，思い出しながら，地元を大切にしたいと言う熱い思いにて，つくば市立の学校・六次産業の工場・農業に関する施設・介護施設など，それぞれに発言されました。様々な意見交換を行い，それぞれの立場・考えを，お互いに理解し合うことが出来ました。

今回の話し合いの結果，跡地利用について大きく3つの方向に，考えをまとめさせて頂きました。あくまでも，ご提案でありまして，本日この検討会において，皆様方からのご意見・ご検討をお願いしたいと思います。

まず，一つ目は教育施設関係にて，現状の使用可能な建物を整備，もしくは，新しく建て替えなど，条件の見直しも考えて，何らかの学校に来て頂けないか，積極的にお願いします。第3回会議でも出ました支援学校もその一つかとも思います。

二つ目は，総合運動公園の計画が，白紙撤回の現状から，今後，総合運動公園に関して，市の方で検討される事かと存じますが，可能であれば，上郷高等学校跡地に，陸上競技場などの建設をお願いし，既存の体育館を整備，もしくは，新しく建て替えて，TXの駅や圏央道のインターからも比較的に近いことから，防災拠点も兼ねた施設を提案したいと考えます。現在でも少年野球やサッカーで使用しているので要望があります。

三つ目は，民間開発をお願いして，西部地区の活性化につながるショッピング・住宅街の整備などを提案したいと考えます。この事は，現状のまま何年も放置されたままでなく，早期利活用を希望したく提案させて頂きます。

行方市で，民間会社が農協と協力して「なめがたファーマーズ ヴィレッジ」というお菓子を製造しているところがあります。民間会社は50億円をかけて，廃校を利用して事業を行っています。私も市場関係の仕事をしている関係で聞いているので，そういうことも一つの策かと思います。

以上が地元7名の委員の考えです。ご検討のほど，宜しく願い申し上げます。
(委員)

私は行方の旧大和第3小学校に行ってきました。大阪の白ハト食品工業という会社が廃校になった小学校を利用して芋製品を扱っており工場もあります。手前は販売や食堂があります。教室は芋の歴史を勉強するミュージアムとなっています。50億かかり，従業員は160名で地元採用は60名，残りは全国から採用しているようで

す。ここは成功例です。ここは昨年10月30日にオープンしました。出来たてです。立地条件は決して良くないが車で行くなら良いと思います。お客さんは地元の方が来られる。土日はお客さんの数も多いようです。私が聞いてきた情報です。

(座長)

補足説明ありがとうございました。ご説明がありましたように、7名の地元委員の方がお集まりいただいて3つの提案的なお考えを出されました。これも踏まえて、本日の議題の3番目の具体的な提案の精査について、事務局からご説明をいただいてディスカッションしたいと思いますので、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

(3) 具体的提案の精査について

〔事務局より、資料について説明〕

〔以下、質疑事項のみ抜粋〕

(座長)

今までの議論を整理していただいた事務局提示の資料と地元委員の方7名からも資料が出されました。これらを踏まえた上で、ご議論をお願いしたいと思います。私の方からまず、市の部長に伺いたいのですが、一つは市西部地区の拠点として整備していくという考えですが、現在都市計画マスタープランの取りまとめをしていて、そろそろできつつあると思いますが、そういう中で、市として全市的にどこかに一つあれば良い施設や機能みたいなものやあるいは地域毎にまんべんなくというか地域に合ったニーズで施設整備なり機能を充実していくという2つの方向性があると思う。そういう観点から考えたときに、この上郷高校跡地を活用するときには何か、将来市にとって必要な施設や機能、あるいは各地域拠点ごとに必要な施設でこの跡地が使えるようなものがあり得るのか市の都市計画で考えているもので何かあれば、また情報などがあれば意見、提示をお願いしたいと思います。

(委員)

質問に全て答えるのは難しいかもしれませんが、大前提として、つくば市の将来人口がどのように推移していくのかということがあります。人口がどれほど増えるのか、あるいは減少傾向に向かうのか、それによって市街地の規模をどの程度確保していくのかということが想定されます。例えば住宅地を誘致する。あるいは住宅に付随して商業系の施設を誘致する。商業系の施設を誘致する場合で人口規模によっては多くあっても良いわけですし、ですから大きな意味での全体の人口規模というのは考えなくてはならないと思います。そういうところで言いますと、現状の大枠で研究学園都市の計画人口が10万人、沿線開発を5地区やっていますが計画人口8万人、それ以外の市街地や調整区域が12万人ですから、計画人口だけで30万人の都市ができてしまうということになります。そこまで現在の人口はたどり着いて

いないということになります。市街地規模としては現在の規模があれば 30 万人の都市ができてしまうということになります。現在はそこまでいっていませんので新たな人口を増やす市街地を作っていくことは現状では想定しづらいと思います。新たな人口を生み出す施設以外の施設とは何が想定されるかということですが、地域ごとに必要な施設として、中心部と言われている、つくばセンターや市役所があるこの周辺には都市機能を高めるという観点で色々な公共施設であったり公益的な施設、市民がたくさん集まれる施設などを集めてきているのが現状です。あとは地域的なニーズとして言われているのは交通のターミナル的な地域の拠点みたいなものですね。今は跡地の問題で茎崎庁舎についても検討がされています。北部の筑波や北条は中心部から離れているので、交通を集めて中心部と繋ぐという機能が必要になってくると言われています。そこで、豊里を考えたときに、どの程度離れているのか、同じような機能が必要だということであればやはり、どこかに集約できるような交通の拠点が必要ではないかということも必要だと思われています。そこについても、きっちり都市マスタープランに確定していないので書き込みがされているわけではありません。上郷高校跡地について記載はしていますが、「土地利活用方策を含めた西部地区の活性化を検討します」としか記載していません。必ずしも、この上郷地区に今何か必要かということについては議論がそこまで至っていないというのが現状です。このことは、全市的に同じような状況にあるというところでございます。

(座長)

これらを踏まえて何か、今日の出てきている案について少し、忌憚のない意見を出していただきたいと思います。いかがですか。

私の方から、話題提供というか考え方の整理として、一つは、地元委員からご照会いただいた考え方ですが、どこか来てくれれば良いというのはある意味で他人任せ的な要素があって、誘致をするためには実はここはこんな可能性があるとかこういう潜在的魅力があるとか、全国各地で色々な形で誘致したり作り出そうとしたりどうしたら自分の価値を高めていくかということについて試行錯誤しているわけです。あるいはマーケティングだとかブランディングが必要な時代になってきているわけですね。そういう意味では、地元委員からご紹介があった 3 つの考え方の中の一つ目の教育関係施設の潜在的な可能性は上郷高校があったということや周辺の小学校などが立地していることであるのでしょうけど、一旦移転してしまったということは現状の中では受容力がなくなってしまったという側面はあるのだらうと思います。ある意味、広い意味での教育施設的なものを考えるときにどういう考え方があるのかという点で前回の会議でもありましたがいろいろあると思います。例えば国際的な視野の下でアジアからの留学生の研修的な機能をもつ可能性はな

いのかということは、これはもう少し事務局も含めて国際的な施設の立地・誘致に対しての可能性はどこまであり得るのかももう少し、議論していただいたら良いと思う。全体的に言えば、つくばは元々研究学園地区が出来たときに全国の研究機関とか新たな理念を持った筑波大学等を持ってきたというのが1970年代からですからかれこれ40年以上が経って、相当、全国的世界的にもつくばがサイエンスシティとしての認知度を上げてきたし研究教育機能の集積が高いということは確かですが、状況が大きく変わりつつあります。多分、これからの学校教育を考えたときに、これまでは学びの場という考え方だったと思います。与えられた知識をより早く正確に学んでいくという時代だったと思いますが、これからはそれでは駄目でいかに創造性を持っていくか、社会に出た後もどうやって伸びしろを広げていくかという発信力を持った機能が大切です。今までは若い人を中心に教育をやってきたけども、これからはリカデンシー（リカレント教育）というか学びをもう一度やってみたいとか、時間の余裕のあるリタイヤした人が若い時には学ばなかった日本の良さを知りたいとか源氏物語とかに再挑戦してやってみたいとか、哲学とかを学んでみたいとか。たまたま日経の「私の履歴書」に小椋佳さんが書いていた記事で知ったのですが、あの方は二足の草鞋を履いてやっていた方ですが、銀行を辞めたのが49歳です。その後、東京大学に学士入学されて文学をやって哲学を勉強されて、しかも学士を終えた後、修士まで行った。だけど修士論文の出来があまり良くなかったから博士課程までは行けなかったけどということが書かれていましたけど、多分、これから高齢化社会や長寿社会になってきて、そういう意味で言えば教育施設もちろん若い人の人材育成、教育というのは大事ですけど、それだけでなく成人とかの教育機能も含めた可能性という意味でのつくばが持っている潜在力をどうやって考えていくかということ踏まえて、来てくれませんかという可能性を探るというのも大事です。つくばにはこういう魅力がありますよ。教育機能をもし誘致、立地させるとしたらこんな可能性がありそうですよということを働きかけていくとか、あるいはつくばに潜在的に今ある広い意味での教育の可能性を持った人材をどうやってうまくつなげていく、教育や知の拠点としてできる整備の可能性を少しこの委員会で提言するとしたら、こういうものをやるとしたときにこういう可能性を展開して考えていきたいと思いますという話を出せると良いなと思います。これは単なる教育施設について申し上げたのですが、その他にも例えば最近では地域活性化やふるさと創生ということで、ストックの活用という考え方も大切です。前々回でしたか上郷の施設を見学しましたが一応耐震補強はできている、ただ、もう少しリノベーションとかデザインの仕方によってはすごく魅力的な施設になる可能性というのがあると思います。最近のまちづくり分野とか建築分野で言えば、リノベーションというのが大きなキーワードになっていて、見違えるように施設にアートの手が入っていて、

公営の手が入ったりすると施設の魅力が変わっていきます。有名な例でいくと、例えば昭和 40 年代や 1970 年代、1980 年代に作られた公営団地や公団団地で典型的な 2DK や 2LDK タイプのところを民間企業の無印という企業が入ってワンルームの現代的な形にすると若い人がかつての古いタイプの公団じゃない魅力を感じて入居希望がたかまってきています。あるいは自分達が手を入れることによって自分たちが愛着を持ってその施設を利用できる。筑波大学の芸専の人たちが実践しているのですが、若い人たちがつくば周辺の農家や空き家になったところをグループで借りてアトリエ的に使ったり、あるいは居住施設ではなかったけど店舗の倉庫を借りてやっていくとか、そういう意味では施設の手の入れ方によってはすごく見違えて変わっていく、なおかつそんなにコストはかけないでやることができます。そういう意味では活用の仕方を提案していくのが良いと思います。こういう利活用に関してなるべく利活用に関して民間の力、経済的な民間の力だけでなくアイデアや労働力といったところを上手く使っていくやり方も考えられるのではないかと思います。ですから、従来型ですと何か新しいところに施設を立地してきて全部やってくればハッピーだったけれども今の時代は中々地域起こしは出来ない時代です。自分たちが創意工夫で少しずつでも改善していくという力が必要ではないか、あとは地域のニーズをどうやって掘り起こすかということを是非考えていただきたいという気がします。やや雑な発言になりましたが、皆さんもそういう意味で、こういう提案はどうだろうというのを是非出していただきたいと思います。

(委員)

今のお話で、上郷地区の委員で集まって 3 つの提案をしましたけど、銀行さんもおられますので、何か良い話があればお聞きできればありがたいと思います。

(座長)

話題つなぎですが、たまたま TBS のテレビで日曜の夜 6 時台の番組でやっていましたが、青木茂さんが取り上げられています。青木茂さんはリファイン建築の大御所で、今は首都大学東京の特任教授をやられています。コンクリートというのはちょっとした手を入れることによって 50 年でも 100 年でも利用可能な形で存続することができるということです。事例紹介をされたのは仙台でお父さんが 60 年前に設計されたマンションですけど東日本大震災で相当大きなダメージを受けて普通の人たちはもう全部撤去して更地にしようと思ったけど、だけどその娘さんと母親＝亡くなられた設計者の奥さんは 80 歳近い方ですが何とか愛着を持って使いたいとの思いを強く持っていました。青木茂さんというリファイン建築でストックを利活用される方のところに相談に行ったら、非常に斬新なアイデアで古い建物でも良く精査していくとコンクリートの柱とかちょっとした手を入れることによって、十分耐震構造を機能させることができる。なおかつ壁があまりにも重かったことで

壁の部分を撤去してむしろそれで軽量だけど構造的には強い柱、梁の構造に変えていくというリファイン建築にして、なおかつ間仕切りとかも撤去して大空間の魅力を作るとか大きな壁にするとかでリノベーションされました。依頼した方は新築したよりは相当コストは安い、だけど単純なリノベーションしたよりはコストはかけている。それでも新築したよりは安く済んだ。そういう意味では、日進月歩の建築技術のところでもストックを上手く利活用できる技術というのは出てきているわけです。というのを今までの銀行の融資だったら、築 50 年以上で旧耐震の建物だったら融資するというのはまず考えられないと思いますが、だけど最近は融資のやり方はその物件が、整備することによってどういう利益を出せるかという形で見えていたとおもいます。昔の金融の仕方はストックを担保にとって地価の 7 掛けして、バブルの時は 10 割近く貸していたようですが、今はそういう時代でなくなってきた。プロジェクトの有用性を判断して融資していく時代にならざるを得なくなったと思います。そういう意味では、金融機関でのリノベーションや上手く使うプロジェクトへのファイナンスに対しての考え方があるのかどうかというところをお教えいただければと思います。

(委員)

銀行の意見ということで質問がございましたが、私の知りえる範囲でご案内します。一般的に今までの銀行の融資スタイルは、例えば投資物件であれば投資物件の価値だったり何か事業をやるときの事業計画を精査しながら、使っていただくお金を回収できる見込みが立てばそれを期間で回収していくというのがビジネスモデルの一般的なモデルでしたが、今はお話が合ったとおり金融というのは非常に複雑で斬新なところが入ってきてまして、ファンド的なところが一行だけでなく色々な銀行だけでなく官民一体になって将来的に有望なビジネスがあれば利益を投資的な側面を持ちながらも事業を前に進めていって地域貢献になったり地域の競争力を高めていくものに関しては、ファンド資金を使って現に当行でも事業が出てきますし全国的に出ていますので、まずは金融を簡単に言うと言い方が悪いかもしれませんが、何でもありの状況に入ってきていると思いますので、まずそこに何を作ってどういうふうに施設であつたり物を官民でも良いし民でも良いし、作っていくということをまず一つの柱が立てば、あらゆる側面から資金は調達できるのが現状です。特に日本は、例の震災の後、全く金融機関でないところがインターネットを通じて資金を調達して事業を再生しているというものがあって、あらゆるビジネスチャンスが本来的な意思、意図があつて協賛、協調できる人が集まれば思いもよらないビジネスチャンスが生まれて推進力があるのが今の日本です。私の知れる範囲ではそういうものがあります。そのベースにあるものは銀行が一枚かんだほうが情報量もありますししっかりとした計画の精査もできますからお役に立てるこ

とは何でもやりたいと思います。今座長からありましたように、リノベーションを含めせっかくある施設ですからしっかり活用できるのが一番良いでしょうし、それに関してグラウンドも併用してますし、まずは具体的にこれで旗がふれるものを皆さんで、つくば市の上郷に関してはこれを第一優先でやっていくんだというものをこの場を持って前に進められれば非常に建設的な市長に対して提言ができるのではないかと思います。あと何回かある中で、優先事業をしっかりと決めてそこを具体的にこういうビジョンでやっていきたいというものまで持っていければ、価値がある委員会になると思いますし現実的に福島などの廃校の情報集めを銀行でもやっています。やはりニーズに合ったものをピックアップするというのは競争になっていますので、それをどれだけ発信できるかというのが上手くいくか行かないかのキーになることは間違いないので、金融に関しては色々な方法がありますので、あまり心配なさらないで何をやりたいか何が具体的に上郷にとってこの6つの中で結構ですから何が優先順位をつけて具体的にこれでやってみようというのがまとまることが一番大事だと思います。私見も入ってますが意見とさせていただきます。

(委員)

優先順位と言いますが、第一番目には文教施設を誘致してもらおうということ。それが駄目であれば、運動公園の計画と防災施設として使おうということです。この前の上郷地区の話でなりました。今度、日銀のマイナス金利で貸したいでしょうから、宜しくお願いします。

(委員)

委員がおっしゃったとおりだと思います。例えば、第一が教育施設関係であれば、非常に現実的な話として無理ではないかと考えております。まず今、どういう教育施設を誘致したいかということが問題で、例えば私が勤務する大学は上郷より地の利の良いところにあります。地の利だけではもちろん学生は集まりません。中学でも高校でも今の県立高校を色々見ていただくと校舎がきれいで、IT化しています。ですから、あそこに何らかの教育施設を誘致するとしたら、学生を集める施設としてどこまでコストをかけられるのかということ。つまりどのくらい集客ができるのかということを考える必要があります。

例えば、つくばみらい市に開智学園が出来ました。小学校からバカロレア教育というグローバル教育の小学校ですが、1年生は20人もいませんでした。採算をとる経営には教育機関側にも覚悟がいる話です。上郷に関しても売りはなにか、覚悟をもってとりくめるかが大事です。現代の教育は、IT化、国際化がトレンドです。地の利は不便でも成功している秋田の国際教養大学や大分の立命館は企業と連携して就職先を確保して開始しました。それでも最初の3年は人气がでても恒常的に継続するのは大変な努力が必要です。教育機関を誘致なりたい場合は、そこを踏

まえた計画が立てば良いだろうとは思いますが、困難だと思いますそれから、運動公園は新聞での知識しかありませんが、総合運動公園の計画が挫折したのは、350億円の経費だけの問題が、他の理由があったのか本当のところは分かりません。挫折しても、市民に実は運動公園があると良いという声があれば、また、どのような運動公園のニーズがあるのかを明確にすべきです。今提言されている内容で、優先順位が1と2、つまり教育機関と運動公園ならば3のショッピングセンターなどという全然違うことは出さない方が良いのではないかと思います。何でもありにしているといけないと思います。6つの可能性の中で、滞在型観光農園は茨城県全体でも集客に繋がらない印象があります。何をやりたいという思いは大事ですが、座長のご提言は、何をすることが決定した後に、芸術家や第二の人生を考える世代の意欲でリノベーションするかという話だと思います。まずこの地をどうするかの方針が決まらないと作業員だけでは上手くいかないと思います。これだけ色々出た中で消去していったら、最後の一番可能性のあるところだけを議論して詰めて具体化するような形にしないと後2回の審議で、形のあるものにするのは難しいという印象を持っています。

(委員)

今、委員からお話がありました。総合運動公園が何故こうなったのかという点については議会の特別委員会で行っていて我々も推進した一人であり前向きに議論していきたいと思っています。地元から運動公園の希望があり、この施設が利用できればということですよね。私も座長の話聞きながら教育関係ならストック、研究学園都市の人材ストックというカリタイヤした有能な方々がいいますから、こういうことを考えたときに教育施設というのは民間も含めた中で投資していただける異色のシニア大学も一つ良いのかなと思いますし、運動公園も大学の一つの施設として活用していただければ良いなと思っています。交通アクセスは市がインフラを整備していくと西部地区の拠点ができるのではないかと思います。

(委員)

シニア大学も良いと思うんですが、これから高齢化社会になり医療福祉分野の学校を考えても良いのではないかと思います。去年の8月に結城市長が選挙公約に医療福祉大学構想を打ち出し見事に当選しました。結城市は人口が昨年9月時点で52,692人、つくば市は224,937人で結城市の約4倍です。シニアや医療福祉の学校、大学とは言わなくても何かしらの施設を誘致していただければありがたい。また交通に関してもつくば市はTXもあるし圏央道もあるし結城市はつくば市に比べ交通アクセスはあまり良い条件ではありません。そういうことから、そのへんの考えもあるのではないかと思います。

(委員)

都市計画法のマスタートプランの話が出ましたが、つくば市の人口フレーム、人口規模が 30 万人あるやに聞いたのですが。

(委員)

都市規模からすると 30 万人が入れる都市規模が元々あるということです。人口推計は違います。

(委員)

今現在人口が 22 万人、23 万人からすると、まだまだ余裕があることになります。開発行為を市そのものが主体的に進めることも中々難しい。こうなると、外部要因、外部からの力を持たなければ開発行為は起きてこないと思うんです。外部からの力となると情報が大事だと思う。私等の情報はほぼゼロですから、座長や各委員の情報と比べるとゼロです。非常に色々な意見を聞けてありがたい話です。情報網をどう作り上げて、県からか国からか教育関係か文科省か分かりませんが、何らかの情報が出てくると思うんですよ。そうすると、先ほどの開智学園ですが特色のある学校が出来たようです。

(委員)

開智学園はバカロレア教育でバイリンガル教育です。

(座長)

開智学校は長野県で一番最初に出来た松本にあるのが開智学校なんですよ。擬洋風建築で重要文化財になっています。バカロレアになっていますね。

(委員)

バカロレアにして国際教育を行っているんです。そこは日本橋学館という学校があったんですが買収しましたよ。日本橋女学館という学校があってこの前そこを買収しましたね。とてもお金持ちの学校ですから。アプローチされたらどうですか。

(委員)

こういう情報も早く入れば、つくばみらい市に負けなかったかもしれない。

(座長)

個人的意見ですが、若い人の教育を考えたときにハンディは相当大きい。上郷は場所的に中々難しいと思いますよ。いわゆるアメリカの超富裕層が通う全寮制の学校とか、トヨタなどが全寮制の中等教育学校「海陽学園」を作りました。いくつかそのような学校設立のトレンドがありますけど、そういうのを目指したら山紫水明のすぐれた場所にやるとか、超富裕層向けの学校にするとか進学校だとかですが、それは違う土俵の話ですから、僕はむしろ違うニッチなところとか、新しいところで若い人だけでなく違う形のリカレントしたい人をターゲットにするとか、時間を持ったリタイヤ層を含めた形とか、そういう人たちが新しい学びをしたいとか、趣味に近い、学ぶことが喜びになる需要は大きいと思います。今の一つの教育

スタイルは国際的競争力を持った人材を育てて国際的に勝てるためにはバイリンガルで英語でばんばんディベートして勝っていけるような人材を育てるというのは一つの考え方ですけど、そんな競争とは無縁の世界の学ぶことの面白さとかスコアって言い方をするらしいんですけど、そういうようなことをやるような人向けの話でこれからの高齢社会の一つの学びのモデルとして考えるのは、先駆的に上郷でそういうのが成立したら地域毎に地域拠点を作っていくということが、学びの場であり交流の場であるし高齢社会や長寿社会の一つの交流学びのモデルの仕方として出来ないかということを提案するとか。

(委員)

それは賛成です。どうやれば上手くいくかという、あの地域を少なくとも行政か民間が整備して若い芸術家でも年寄りでも、無料で住める機会を与えるのも一案です。

(座長)

整備するのに対して、整備のための機会を与えて若い人たちが自分たちで手作業でやるという形をやる。そちらの方が絶対面白いんですよ。今、その方が魅力を感じる人が多いんですよ。座学でなく実学的に学べる人が出てくる。ものづくり大学校も一つの方向性だと思うんですが、今世の中の動きとして絶対勝てっこないから違う形のところを探してみる方が確かだし、例えば上手く創意工夫して少しでもレベルアップしていけるような使い方をしてみると楽しいと思う。自分で手を入れることによって愛着が持てるというようなモノ作りの仕方があるのかなと思う。

(委員)

それ賛成ですね。ドイツでは城壁の修復を市民がレンガを一個一個購入して修復するといったことがあります。アイディアとしては良いのですが、誰が旗を振るのか、誰がコアになる人々を集めて、コンセプトと初期投資を行うか検討しないと難しい。素晴らしいとは思いますがね。

(座長)

つくばは人材の宝庫だから上手く活用して、例えばもう一回ジャズセッションをやってみたいとか、その場をすごく防音設備を整えとか、あるいは違う手作りで自転車を作ってみるとか。私の友人は数百万をかけて自転車を作っていますよ。そういう趣味の世界で生きる人が増えてきているんです。そう人たちを取り込むとか、そこに場を提供すると、場とそういうことを上手く教えてくれる人材を仲介していくというやり方もあると思います。農についても家庭菜園だけでなく農のプロフェッショナルに教えてもらいつつ、そこで栽培したものをどう調理するかという付加価値を付けることもやりますよとか、上郷地区の女性の力を使って食材の料理を工夫してみんなで楽しんでわいわいできる場を提供するとか。そういう今までの

コンセプトでいうと教育といって良いのか、コミュニケーションといって良いのかですけど、そういう場をあそこで考えられないかというのが一つの考え方なんですよ。

(委員)

創意工夫と言われますが、私等は雲をつかむ思いなんです。ですから、これをまとめていくためには最終的には優秀な事務局がついているから大丈夫だと思いますけど、中々これが実現する段階となると、今は方策委員会ですから心配ないと思いますが、これが実現するとなると本当に大丈夫かなと心配しちゃうんです。

(座長)

明治の前の江戸時代の時に全国に6万5千位の村があったんですが、だいたい村一つ当たりの人口が4百人ぐらいで江戸の人口が2千4百万から3千万人ぐらいでした。江戸の末期から明治にかけて寺子屋が1万7千あったんです。ただから6万の内1万7千ですから3割ぐらい、3つか4つの村ぐらいのところに一つ寺子屋があって読み書きそろばんをやっていたんですね。今で言うインターネットやバイリンガルという世界でしょうけど、当時としては読み書きそろばんで、少し高級になると論語や中国の漢文が全部読めるようになるぐらいの教育機関があったと言えると思います。そういう意味では江戸時代においても日本の教育水準を世界的に比べると相当高いものがあったと言えます。そういうことを踏まえると、昔のことを再現するのは無理ですけど、何がと言ったら新しい時代に合った学びの場とかお互いが教えあう教育とは何かとかコミュニケーションとは何かという形をやっていく。最近は座学で心技体を学ぶという時代でなくなってきたときに、もう一つ、俺は若い時に勉強しなかったけどこういうの読んでみると面白いよねとか、音楽挫折したけど本当はジャズのセッションをやりたいかったんだとか、自分で自転車を作ってロードサイクルやりたい人が出てくるとか。日本は豊かな国になってきたわけですから、そういうことを楽しめる場と機会づくりを提供するかというアイディアも一つの考え方として有り得るんじゃないかということか私の言いたいことです。実は、江戸の村時代にあってそういう素地はあったわけですよ。

(委員)

村おこしの話が出ていますが、上郷高校跡地も今、一生懸命方向付けを決めないと、また北の方を見れば小中学校が廃校になっている。そういう中で、考えていかなくてはならない。1/14の農業新聞に山形県高津町の農家や企業で作る特定非営利活動法人NPOが1970年代に熱中時代というのがあったと思います。それを小学校なので熱中小学校という名前を付けて、先生方は地元の企業の社長や大学教授や農家が主体となって始めた。地域ぐるみの熱中学校ということで農業もやる、会社の経営方針なども勉強する。去年の10月に廃校になったようですが85人が入学

したそうです。年齢的には19～78歳までの方が勉強しているようです。授業料は6か月で1万円だそうです。それでも後を絶たなく申し込みがあるようです。農家もやってみたい野菜を栽培してみたいと思う人が多い。こういうのも跡地全部でなくても、複数の使い方もあるのではないかと思います。

(委員)

色々意見は出ていますが、最終的に地元活性化といいますけど、地元もしっかりした考えをもって地元の有志や議員達が早急に立ち上がって地元をどうするかということを話し合わなければならないという気がする。基本的には地元がどんどん活性化させるような活動、方針でやっていくべきでないかと思う。

私も、やってみようと思っていますし、後で地元区長と動いてみようと考えています。

(座長)

筑波大学は国立大学の中でも体育系の学部があるという珍しいし、筑波大学の体育系を卒業した方は全国の高校の体育の有能な指導者になっていると思います。筑波大学の体育学群で体育や健康をやっている方も多いと思いますが、地域貢献や地域連携的なことをやってらっしゃるのかとか、サッカーでいえば鹿島アントラーズがつくばでトレーニングを教えているのでしたっけ。例えば、今回の運動公園的なところを利用してスクーリング機能をやるとか、広い意味で、何度も同じことを申し上げますけど教育といっても色々なバリエーションがあるでしょうということを踏まえた上での既存の資源とかを活用できる可能性を探ってみることが大事だと思います。

それに先鞭をつけられれば、各地で地域おこしのことでサッカーだけでなくラグビーとか、スクーリング機能を持ったことが各地で出来るといいですね。つくばの標語は健康都市でしたっけ、健康は予防の方ですから、そういうところを含めてできる限り知恵を出していただきたい。つくばが持っている潜在的な資源は何かということを是非掘り起こしてそれを上手くつなぎ合わせられる術はないかということ。折角、つくばのことを考えるために集まってきたんですから、つくばが持っている利活用の可能性を探ってみようということだと思います。多分、上郷の歴史を紐解くとそういう資源が相当あるんじゃないかと思います。そのへんを出していただきたいと思います。

(委員)

素晴らしい意見だと思います。サッカー場に関しては、本学の多目的広場をサッカー場として整備し、地域のつくばFCが使うことになっています。技術大学は大きなサッカー場を持っていますし、筑波大学も大きなサッカー場を整備して、イタリー製の人工芝が入ります。最近では、ラクロス、弓道が人気があるそうですから、

上郷を運動公園にする場合は、コンセプトを新しくすることが必要でしょう。ただアクセスは考えないといけませんね。

(座長)

最低限のアクセスの問題はあると僕も思います。

(委員)

全く個人的な意見ですが、皆様のご意見をまとめていくと教室がたくさんあって耐震構造になっていて教育機関を誘致したいと。色々なスポーツをやりたいと。SOHO とかレンタルオフィスとか。やりたい人の情報を埋めていくようなやり方をしたほうが早いと思います。やりたい人がお金をかけて手直しをする。そういうやり方は国内でやっていないと思います。ですから、ある意味つくばでは可能なんだろうと思います。

(座長)

ただ借りてくれというのではなく、その内容に関しては全体の大きなフレームは決めておいて、これに合致するものは認めていきましよう。場合によっては市が支援するような仕組みを作っておくとか。一つの特色を見出すことをやることは大事なことだと思いますね。

(委員)

大枠や外枠を決めて柱を建てて、プロモーションや宣伝していかないと難しいと思います。そうしないとこの議論が前に出ないと思います。宣伝をしたうえで例えば、柱だけの場合もありますよね。どこかの企業が興味を持ってやることは一つの案です。あまりお金をかけずにホームページにアップするとかというのは一つの方法論としてあるんだろうと思います。既存のものを使ってお金をかけずにやるために、何かを始めようとした場合に皆様の意見を集約するということになるんだろうと思います。

(委員)

関連しますが、つくば市には研究者がたくさんいらっしゃる。しかし資金的な面などで、直ぐには起業できない方も多くいる。そこで、貸室、貸部屋として創業支援施設のニーズはあるのではないかと思います。実際にそういうニーズも聞いている。そういうニーズを掘り起こせば人も集まってくるのではないかと思います。但し、足の便が不便だということはあります。もう一つ、グラウンドが広いので社会人のスポーツが最近伸びている。社会人のスポーツのところと連携してやるのも一つかと思う。幸い、つくばには色々な病院もあるし筑波大学もありますから、連携して怪我した時のフォローなどの協力も得られるのではないかと思います。

(委員)

行政に聞きたい。私は以前戦略会議の議長をやっていましたが上郷高校跡地に関

して戦略会議の中で何か提案があればお聞かせ願いたい。

(委員)

戦略会議ですが今年度私が担当してからは開催しておりません。つくばは新規創業の事業者数が多い地域です。産業競争力強化法で関東経済産業局管内で新規事業者数は第2位です。現在は新規創業に加え大学や研究所からのベンチャー向けオフィスの需要が高いのが実情です。広さにして20～30坪程度ですね。現在、市でつくば駅前に整備する計画を持っています。ただ部屋数としてはそれほど多くありません。交通の便の良いところを希望する傾向にあります。上郷高校跡地は若干交通の便に課題はありますが、上手な誘導の仕方を工夫すれば可能性もあるという印象を持っています。

(委員)

アクセスは駅から徒歩5分ぐらいでないと駄目ですか。

(委員)

入居者は車を使いますが、東京方面からの来客者が不便で、やはり駅前を希望する傾向にあります。

(委員)

つくば市全体から見て、上郷の農業度、例えば認定農業者数や農業経営士などありますが、高いのか低いのか。元々農業学校ですから、圃場が相当ありました。周辺にまで影響を及ぼすような農業に特化した振興策はないでしょうか。ここは農業振興地域ですから、農業度を高める方法はありませんか。今、農業振興計画の策定中と聞いて言います。その中で何か考えられないのか。やはり活気が出るものはありませんか。

(委員)

上郷地域の数字は持ち合わせておらずすみません。農業をこれからの経済発展の重要なファクターとして位置付けていくことに変わりはございません。例えば、新規農業従事者を確保することについて国では45歳迄に新規農業を始めますと年間150万円の補助金がもらえ5年間連続します。こういったものを脱サラも含めて積極的にPRしているところです。中にはブドウの栽培を始め、いよいよワインの販売を本格化するという事例もございます。実は昨日、つくばコレクションの認証式がございました。9つの商品を新たに認証しました。その一つがつくばワイナリーです。ここは新規でつくばで始めたワイナリーです。その他の地域でも、イチゴ等に力を入れている地域もございます。元気で頑張る方がいれば可能性は十分あるんだろうと思います。そういった方を一人でも二人でも多く捉えて支援していきたいと思います。昨年から5年間のつくば市農業基本計画を作りました。この中でもこの割合を高めていこうという目標を掲げ盛り込んでいます。他にも研究機関と連携

しながら新しい技術を導入した新しい農業形態の在り方、作物ばかりでなく作業効率化も含め、地域性に偏らずどこでも農業経営ができるのではないかと考えております。

（委員）

農業に関しては組合長がいれば詳しいんですが、私も直売所の部会長をしていますが、やはり若い人が入ってこないですね。高齢者ばかりで若者はいません。本当は若い人が入ってくればいいんですが。悩みの種です。

（委員）

農業の活性化ということが出ましたが、中々、豊里地区ですら専業農家が減りました。専業農家があれば北海道ではないが自給率 200%という話になってきますが豊里地区は芝生産だけ。委員の意見のように直売所に持っていくような程度の量しかやらなくなった。行方市の話もしましたが人を寄せるには食べ物です。食べ物があればいくらでも寄ってきます。ただ、そういう名産地がないんですよ。行方市にいったらどこでもさつまいもを作っています。そのさつまいもを利用して活性化しているんです。芝畑が食べ物であればいくらでも来ると思います。ただ残念なことに豊里地区でも白菜やキャベツを作っていますが、八千代や千代川の専業農家が来てやってるんです。そういう専業農家が来ているんで若い人もやっていますよ。豊里地区は残念ながら芝を作ったおかげで楽をしたから意欲がなくなった。私らも大根や白菜を沢山作っていました。今はなくなってしまって寂しい限りです。今は市場で仕事をしています。

（座長）

そろそろ時間ですが、何か他にございますか。

是非、言っておきたいことがあればどうぞ。今日は随分活発な意見が出ましたので事務局は整理をするのが大変だと思いますけど、少しアイディアを具体性を持つような話に展開できればと思っておりますのでよろしく願いいたします。そろそろ議事を終えたいと思います。

5 その他

事務局より、次回会議の日程を3月29日（火）午後1時半から、市役所6階の全員協議会室で開催する予定であることを案内した。

また、源泉徴収票作成に伴い、個人番号通知カード及び運転免許証のコピー提供について案内した。

6 閉会